

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成28年1月27日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

昔の名前で出ています

日本では富岡製糸場や八幡製鉄所など、近代の経済施設が世界遺産登録されていますが、中国には現代日本の経済遺産が残されています。

日本に縁のある戦前文化遺産が多く残る大連

中国の遼東半島の南端に位置する遼寧省大連市はその歴史は浅いですが、戦前には日本の租借地として、満州への入口として日本人には縁のある地であり、弊社大連オフィスのある中山広場周辺は日露戦争後の当時の日本人が建てた欧風建築物が文化遺産として現役で残されています。

また、戦後の中国経済政策の改革開放後は、日本から遠くないこともあり、製造業を中心に開放初期より多くの日本企業が進出し、2014年の調査では、日系企業は1,700社、在留邦人は6,000人に上るそうです。

戦後日本の新たな経済遺産？

現在、上記の様に既に多くの日系企業が進出している大連では、現在の日本では既に見ることの出来ない企業ブランドの影響が残されています。

例えば、大連駅前の繁華街には「マイカル大連商場」という百貨店があります。これは日本の大手流通業だったマイカルと地場企業との合弁で開設されたものですが、その後マイカルは巨額の負債を抱え実質的に倒産、同業他社に吸収され、現在はマイカル（サティ）は日本では見ることは出来ませんが、大連ではローカル資本独資の店舗としてそのブランド名は健在です。

また、大連市内から経済開発区を走る軌道交通（電車）の駅名に「通世泰」（中国語の発音は tong shi tai）という駅があるのですが、これは近隣にある日系企業「リクシル」の大連工場に由来しています。この工場は元々「トステム」の工場でしたが、トステムもまた日本で企業再編を経て会社名をリクシルに変更したのですが、駅名は変わらぬままで今に至っています。

会社創業の由来を中国で残す

その他中国で展開する流通業として、筆者の駐在する北京や四川省成都では大手流通業のイトーヨーカドーが以前より進出していますが、その店舗シンボルマークは日本の現在の「7&i」ではなく、現在でも昔からお馴染みの鳩のマークを使用しています。筆者は関東の東武伊勢崎線沿線出身で幼少時より近所のイトーヨーカドーにはお世話になっていました。日本では近年イトーヨーカドーの看板が容赦なく「7&i」

に変えられてしまい、何となく寂しい気持ちになっていたのですが、中国でそのマークを見ると筆者は何故か中国でホッとすることがあります。

また最新情報では、成都で新たに開業を予定するイトーヨーカドー店舗の開発エリア名称を創業者の名にあやかり「伊藤広場」と称するそうです。